

科目名称	老年期障害の作業療法応用
授業コード	AE319
英語名称	
学期	2024年度前期
単位	1.0
担当教員	小橋 一雄
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	自己実現能力の養成を行う作業療法は、生き活きと社会で生活するための作業を獲得するリハビリテーションである。ここでは、老年期に体験する特徴的な疾病や生活の変化による心身機能・日常生活・社会生活の変化について理解し、生き活きと社会で生活するために行われる、予防的視点、治療視点をもとに行われる作業療法について学習する。尚、本科目は上記内容について、地域及び施設における高齢者領域において実務経験のある教員による実践的科目である
科目に関連する実務経験と授業への活用	担当教員は、維持期及び終末期に見られる、虚弱高齢者や認知症の高齢者を対象に臨床経験を積み、日々作業療法を研鑽している。この講義では、高齢者の身体及び精神、生活の特徴を基に、高齢者医療及び介護領域において培われた実務経験を生かして講義する。
到達目標	<p>本科目はカリキュラムポリシーに掲げる「基礎作業療法学や評価学、治療学、管理学などから、作業療法の実践を学ぶ科目【専門科目】」に該当し、以下の3つを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の生活を評価することができる 2) 高齢者の予防的、治療的、適応的視点で作業療法を理解することができる 3) 回復及び適応的、予防的視点を学習し、地域や施設または病院において、集団及び個別の作業療法を実施できる <p>これらを通して、老年期に生活障害を抱えるクライアントに対する評価と治療方針を検討し、対応することができるようになる。また、高齢者に対する尊厳について学ぶことで医療専門職及び研究者倫理に関する規範意識として、専門職の行動規範、遵守すべきことなど理解した上で取り組むことができる</p>
計画・内容	<p>科目は、担当教員が高齢者医療及び介護領域において培われた実務経験を生かして講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション 高齢者に用いる標準化された検査 担当教員：小橋 2) 高齢者の生活を評価（作業質問紙などの活用） 担当教員：小橋 3) 高齢者の生活を評価（標準化された評価用紙の活用） 担当教員：小橋 4) 高齢者の生活史を知る（情報収集） 担当教員：小橋 5) 高齢者の作業療法介入 担当教員：小橋 6) 虚弱老人に対する作業療法（廃用症候群、寝たきりについて） 担当教員：小橋 7) 寝たきりに対する作業療法 担当教員：小橋 8) 前半のまとめ 担当教員：小橋

計画・内容	<p>9) 高齢者の生活史を知る (発表) 担当教員: 小橋</p> <p>9) 認知症に対する作業療法 担当教員: 小橋</p> <p>10) 認知症に対する作業療法 認知症の方の世界を理解する 担当教員: 小橋</p> <p>11) 認知症に対する作業療法 ADLへの介入を工夫する 担当教員: 小橋</p> <p>12) 認知症に対する作業療法 BPSDへの介入を工夫する 担当教員: 小橋</p> <p>13) 認知症に対する作業療法 予防的作業療法の考え方 担当教員: 小橋</p> <p>14) 整形外科疾患とロコモティブシンドローム 担当教員: 小橋</p> <p>15) 老年期障害の作業療法 まとめ 担当教員: 小橋</p>
授業の進め方	教科書、配布資料を使用し講義を進める。オンラインシステムを活用して、講義、個人ワーク、ペアワーク、グループワークなどのアクティブラーニング形式で行う。
能動的な学びの実施	課題を通して、前回の課題の確認、次回の課題の予習を説明し、授業ごとの振り返りが出来るようにする。
授業時間外の学修	<p>授業時間外学習</p> <p>予習および復習は合計15時間程度行ってください</p> <p>予習は教科書から対応する部分について、あらかじめ熟読してください</p> <p>復習は、教科書と授業内で配布した資料を学習してください</p>
教科書・参考書	<p>教科書: 村田和香 編集; 作業治療学4 老年期 協同医書出版 2940円: 2008</p> <p>参考書: 宮口英樹 監修; 認知症を持つ人への作業療法アプローチ メジカルビュー 4300円: 2019</p>
成績評価方法と基準	成績は、前半のまとめの際に行う中間試験 (50%) 定期試験の成績 (50%) の合計100%で判定する。
課題等に対するフィードバック	課題に対してのフィードバックは、Campus Square内のレポート機能を通して、フィードバックする。
オフィスアワー	CAMPUSSQUAREで確認をしてください。
留意事項	<p>本科目は、老年期障害の作業療法基礎で学んだ知識を基に、老年期に対する作業療法の介入を学習する。特に認知症高齢者、虚弱高齢者、障害高齢者の評価からプログラム立案、実践上の問題点など演習または症例提示により、グループ討議や全体討議をと通して作業療法介入の本質を学習する。</p> <p>担当教員 (経歴)</p> <p>介護療養型医療施設青梅慶友病院に14年勤務し、その後介護老人保健施設飯能リハビリ館に勤務。地域の作業療法と終の棲家である療養型の医療施設にて作業療法を展開する。現在は、飯能リハビリ館にて地域における高齢者の作業療法を行っている。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>非対面学習となった場合でもZOOMなどのオンラインシステムを用いて行う。</p> <p>教科書、配布資料を使用し講義を進め、ブレイクアウトルームなどを用いて、個人ワーク、ペアワーク、グループワークなど、アクティブラーニングの機会を多く用いて行う。</p> <p>対面での試験実施が不可能な場合、googleフォームなどを用いて試験を行う。</p> <p>基本的には、対面時と同様に、前半のまとめの際に行う中間試験 (50%) 定期試験の成績 (50%) の合計100%で判定する。どちらか一方が非対面となった場合にも試験方法にかかわらず、同様の判定を行う。</p>